

秋田県

公立大学法人

国際教養大学

Akita International University

多目的ホール、講義棟、図書館

設計・監理:仙田満+環境デザイン研究所・コスモス設計共同体

グローバルな教養教育に徹して、 世界で自在に活躍できる人材育成を。



INTERVIEW

国際教養大学 理事長・学長
(国際社会学者、東京外国語大学元学長)

中嶋 嶺雄 氏
Mineo Nakajima Ph.D.

今までにない国際系の大学が、
秋田県の念願によって誕生

1980年代のバブル期に、外国の大学の日本校が各地に開校し、ここ秋田県雄和町にも、1990年から2003年までミネソタ州立大学機構秋田校がありました。しかし、バブル崩壊後の不景気や、日本の法律下では大学と認定されなかったこともあって、学生が集まらなくなり経営難で閉校しました。環日本海交流の歴史を持つ秋田県は、産官民が一体となって国際化を進めており、この場所にもう一度、新たに国際系の大学をつくりたいと願っていました。2000年に大学創設に協力してほしいという依頼がありました。当時の私は、少子化時代にこれ以上日本に大学を増やす必要はないと考えていましたし、現在の大学のあり方にも疑問を持っていました。ですから、「従来の日本にはない本当にグローバル・スタンダードの大学をつくる」というならお手伝いしましょうと申し上げました。その意向が受け入れられて「国際系大学(仮称)創設準備委員会」が発足し、私が委員長になりました。そして2004年4月に、「大学を新設するなら、常識や慣習に囚われずに思い切ったデザインを描けるように」と全国で一番

最初に公立の大学を法人化して、「公立大学法人 国際教養大学」が誕生したのです。

世界に通用する外国語教育への使命感が、
大学づくりの原点

私は、今の大学の英語教育には大きな問題があると思います。英語できちんと仕事をするにはTOEFL*が600点以上必要で、その水準に達した卒業生は英語を学んだ50~60万人中の1000人ほどしかいません。そのあたりを根本的に変えていかなければ良い人材育成ができないのではという危機感と使命感を持っています。そのような危機感と使命感に後押しされて国際教養大学はスタートしました。その考えが幸いにして大学進学を目指す受験生にも理解され、多くの入学希望者が来てくれたのです。

語学力は、コミュニケーションのツールとして重要です。本学では、全ての授業が英語で行われるため、入学後の半年~1年間に英語集中プログラム(EAP)で英語力を徹底して磨きます。さらに、将来必要となる異文化理解とコミュニケーションのために、「三言語主義」といって、母語、国際語の英語、プラスもう一つの外国語の学習を推奨しています。ひとつの言語を学ぶことは「ひとつの世界が広がる」ことです。より多くの学生たちがその世界を体験し、その喜びが人生にとってすばらしいことだと気づけば、人生は2倍も3倍も生きてきますよ。

キャンパスライフでは、外国の留学生とともに1年間の寮生活をしてもらいます。集団生活を嫌う現代の若者に、人と人の関係づくりや異文化体験をしてほしいので義務化しました。開学当初から留学生を募集し、毎学期100人以上の留学生が学んでいます。9月入学が可能なグローバル・スタンダードの Semester制を採用し、留学生が来やすいようにしています。当キャンパスでは異文化との出会いは日常的で、関係がうまくいく場合も、ときには摩擦が生じる場合もありますが、そうした経験が異文化理解に役立つのです。

*TOEFL(トーフル) : Test of English as a Foreign Language の略。英語を母語としない人々の英語力を測るテスト。

国際教養大学図書館

「本のコロセウム」をテーマとした半円状空間。傘型屋根が特徴で、架構には秋田杉を使用。書架の背面は閲覧席になっている。24時間365日開館。



秋田杉の森に囲まれメタセコイアの大木がそびえるキャンパスでは、晴れた日は戶外での授業も多く、学生のアイデアを引き出すきっかけにもなっている。

教養教育の中核は、 独自の授業内容や教育態勢

やはり、大学で一番大切なものはカリキュラムです。徹底して教養教育(リベラルアーツ)を重視しています。教養教育は、学生が自己発見のために広く深い学問的素養をつけるうえで、重要だと考えるからです。しかし現在の日本では、多くの大学の学部で教養教育が軽視され、学部教育が空洞化しています。本来の学部教育を取り戻すためにも、教養教育を充実させなければなりません。本学の授業科目は、人文社会系から理系まで幅広く、人口学や紛争予防外交論など将来の社会に必要な授業科目も揃えています。カリキュラムの流れは、EAP 終了後、2年次に基礎教育を幅広く学ぶことで様々な視点を養い、3年～4年次に専門教育と留学で自らの専門を見出して知識を深めるというかたちが標準的です。インターナショナル・コードをカリキュラムに付けていますから、外国からの留学生は国際教養大学のホームページで、どんな授業が受けられるかが分かります。

また学生には、1年間の海外留学を義務づけています。卒業単位は124単位ですが、そのうちの四分の一を海外で取る必要があります。これはかなり厳しいことです。留学は、TOEFLの550点をクリアすることが条件ですから、学生たちは一生懸命勉強します。課題もたくさん出ますから、いつでも勉強できるように、図書館とコンピュータ室は24時間365日開くようにしました。

学生一人ひとりをサポートするために、少人数授業、アカデミック・アドバイザー・システム、学習達成センター、キャリア開発室などの態勢をつくって臨んでいます。アカデミック・アドバイザー・システムは、全ての教員が自分の生徒を持ち、生活から勉強・進路まで全ての相談を受けるという制度です。教員は年俸制で、全員で知識をシェアしたり、教員同士の授業見学や学生の評価などが日常的に行われ、一種の緊張感があります。

目標は就職ではなく、 大学で体験し培われる人間力

卒業基準が厳格なので今年も50パーセントの卒業率ですが、OECD 諸国*では普通ですし、決して悪いことではありません。留学から帰った後に、急いで就職活動をして卒業することは、スケジュール的に大変なことです。大学生活を充実させるためには、多少卒業が遅れてもかまわないと思っています。現在は、卒業するまで企業が待ってくれるようになりましたから、学生も就職を気にしないでゆったり大学生活を送れるよう

になりました。学生たちは、留学で数々の体験をして価値観が多様になり人間的にも成長します。だから留学後でも進路を変えることができるような柔軟性を、カリキュラムに持たせました。

学生の就職内定率100%が巷の話題になっていますが、それは主たる目標ではありません。大学生活の成果としての卒業が、ひとつの大事な目標であり資格となります。勉学に打ち込んで異文化体験を重ね、そこで得たコミュニケーション力や自分の意見を言える積極性が、企業に認められたのです。「実にいい学生を採用できたから、これからもよろしく」と企業から言われると、学長として非常にうれしいですね。

*OECD: Organization for Economic Co-operation and Development (経済協力開発機構)の略。OECD 諸国の大学卒業率では、日本が91%と一番高く、先進国は50%前後。

国際教養を理念に、 名実ともにトップクラスの大学へ

本学と国際基督教大学、立命館アジア太平洋大学、早稲田大学国際教養学部の4大学が今年4月に、真の国際人養成を目指して連携協定を結びました。これから求められるグローバル化は、全世界があつという間に繋がる「立体的な概念」です。それに比べて国同士を結ぶ国際化は、水平的な概念と言えます。世界がひとつになればなるほど、逆にそれぞれの国や地域の文化に基づくアイデンティティーを持つことが大事になってきます。そういった人材を育てることが大学の本来の役割です。

また、国際貢献と地域貢献どちらも大事にしていますから、留学生も含めた学生の地域貢献はとても盛んです。中山間地域での米作りや伝統芸能への参加、小中学校で英語の授業をアシストするなど、これらは単位にも反映されます。地域の文化を学ぶ環境としては、ここが東京でなく秋田だから却ってよかったのではないのでしょうか。国際教養大学は、東京から飛行機で50分、秋田空港から車で10分ほどで来られる緑豊かな場所にあります。私は常々、大学が置かれる環境や景観はとても大事だと思っています。

将来は、国際教養*を理念に、リベラルアーツの大学として世界でトップクラスの内容にしていきたいと考えています。それが日本の人材育成にとって必要だからです。学生には、内向きではなく世界に太刀打ちできる若者に育ってほしいと願っています。

*国際教養: International Liberal Arts。学長自身の構想による高等教育の新理念で、1.外国語とりわけ英語で自由かつ積極的にコミュニケーションできる 2.幅広い教養を身につけ様々な視点から物事を深く捉えられる 3.グローバル化に対応する自分自身の専門分野を見出して知識を深めることをめざす。



講義棟(新講義棟)
外殻のコンクリート造りの中に木造を入れる「入れ子構造」。建物の耐久性を高めながら、木造の温かさと陽光の明るさが調和した空間をつくり出している。



D101教室／テーブル:CTZ、イス:ルッシュ、教卓



D101・102教室

求心力のある扇状の教室。比較的人数の多い講義形式の授業に使用される。ディベート形式の授業や少人数でのグループワークも行われるため、テーブルはキャスター付のフラッピングテーブルを採用し、授業形態に柔軟に対応している。

プレゼンテーションルーム

グローバル・ビジネス課程の「ケーススタディ」など、自分の意見を積極的にプレゼンテーションし、世界で競う企業人としてのスキルを磨く授業に利用される。



プレゼンテーションルーム／イス:ベン、教卓



教室

少人数教育を徹底し、学生が15人位の授業が基本となる。「習う」より「ディスカッション」が多いうえ、教員ごとに使い方も異なるので、「家具を自由に動かして授業に合った形態を作り出せる」ことがポイントに。1人用デスクもキャスター付を採用。室内には秋田杉が使われ、窓の外は美しい緑の風景が広がる。



教室／デスク:SCM-700、教卓

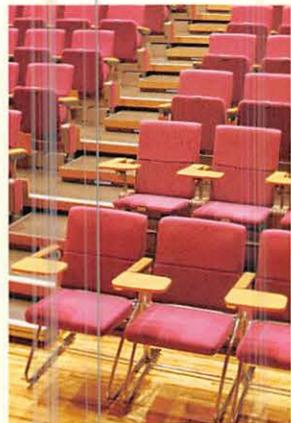
設計:仙田満十環境デザイン・コスモス共同企業体



多目的ホール／移動観覧席「テレスコープスタンド」: AHP-A8204-23PTA 534席、専用スタッキングチェア(メモ台付) 124席



移動観覧席は3つのブロックで構成されている(センターブロック308席、左右ブロック各113席)。左右のブロックは、ホール出入口との兼ね合いによりデッキ数を1段少なく、切り欠きを設けてステップを配置し、アプローチのしやすさを考慮している。



観覧席と同意匠のスタッキングチェア。メモ台付で、スタッキングが可能(専用台車に7脚積載)。スタッキング時はメモ台を取り外して収納する。

Akita International University

学内行事から
国際会議まで利用できる、
機能とデザインを兼ね備えたホール

(株)環境デザイン研究所 会長 柚田 満

十字型平面と外周リングによる2重構造

多目的ホールは、通常は体育館として利用しますが、国際会議や式典、クラシックコンサートなど幅広い活用が求められました。我々は、十字型平面をしたアリーナの外周を円形のランニングロードが取り巻く2重構造のホールを提案しました。

アリーナからホールへの空間の転換

体育館として利用する場合と、ホールとして利用する場合では、アリーナの正面は90度向きを変え、移動観覧席、舞台天井、側面反射板、ウイングパネルを操作することで、室内の様相は一変します。体育館使用時は、前室のドア、2階ランニングロードに面して雁行したパネル、舞台後壁を開けて、光と風を入れます。一方、式典やコンサート使用時は、それぞれ適正な音環境が異なるため、舞台天井、側面反射板、ウイングパネル、舞台後壁などの開閉や残響可変カーテンを調整して、各場面に合った空間をつくります。十字型平面の入り角部分にあるL型壁が鉛直力を、外周リングが水平力を負担し、全体として経済的な構造計画を実現しています。

低いランニングコストで快適な室内環境

冬の寒さが厳しい秋田では、低ランニングコストによって快適な室内環境を実現することが我々の課題でした。大空間のアリーナは底冷えが懸念され、安定した温熱環境を得るため、床下空調を採用しています。建物は低層部を外断熱にしており、平面計画ではアリーナを中心とした「入れ子構造」となっているため、主空間であるアリーナの温熱環境は安定しています。

多目的ホール

舞台奥の扉を開けるとガラス越しに桜並木が望める。
通訳ブースが2つあり、二言語対応が可能。



CULTURAL
Space
Quest

あるべき
教育の姿をめざす
個性的な大学づくり

岐阜県

岐阜市立

岐阜薬科大学

Gifu Pharmaceutical University

設計・監理：(株)梓設計

グリーンハーバルガーデンと2階テラス／

薬草を介した学生や教職員の交流の場。さらに地域の児童や学生の社会学習の場ともなる。様々なコミュニケーションを誘発するため、方向性を限定しない家具を採用。家具を置くことにより人が集まり、そこからコミュニケーションが広がる。

アイネックスアマーバ、アイネックスランドスケープ(緑台特注デザイン)

SCENE

CREATING
CULTURAL SPACE
FOR GATHERINGS

66



少子化時代を背景に大学が存続にしのぎを削るなかで、最近、大学本来の姿を捉え直そうという新しい動きが出てきている。そういった大学の中から、いま注目を集めている公立の単科大学に焦点を当ててみた。秋田県の国際教養大学と岐阜県の岐阜薬科大学は、教育の目標や内容は全く違うが、注目すべき共通点も見られる。それは、「明確な教育目標をもつ徹底した単科大学」「少人数制できめ細やかな指導体制」「体験を重視した豊かな人間形成」「学生のコミュニケーション力を重視」である。両大学とも、めざす教育の姿を実現しつつあり、地域はもちろん全国からも注目され期待されている。その姿を探りつつ、環境や施設づくりも併せて取り上げていきたい。

秋田県
公立大学法人
国際教養大学
Akita International University
p2-6

岐阜県
岐阜市立
岐阜薬科大学
Gifu Pharmaceutical University
p7-10

あるべき 教育の姿を めざす 個性的な 大学づくり